

一般質問通告書

通告順番 3 番

通告者 村山 龍一 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 「世界で一番住みたいまち、住み続けたいまち」について	大津町は、昭和31年8月に町村合併し誕生した。大津町人口ビジョンによると、合併後、昭和35年（1960年）の人口は、21,885人、その後、昭和50年（1975年）には、18,086人まで減少した。本田技研工業㈱熊本製作所などの企業誘致により人口が増加し、昭和60年（1985年）には、22,008人、平成22年（2010年）31,234人と3万人を超え、令和7年1月末は、36,286人となっている。 大津町の人口将来展望では、令和12年（2030年）に、37,888人、令和24年（2060年）では、41,706人を目指すとなっており、「世界で一番住みたいまち、住み続けたいまち」だからこそ、達成できるものと思っている。 そこで、具体的にどのようなまちを目指すのか。町長の考えを問う。	町 長
2 トップセールスについて	昭和31年に大津町ができ、初代は、坂本町長、大塚町長、西岡町長、荒木町長、大村町長、家入町長、そして金田町長にバトンが渡され、今回2期目。それぞれの町長は、いろいろな思いをもってまちづくりを行われていた。 金田町長の基本方針である、「民間の知恵と活力を生かす」、「先進技術（ICT）の活用」、「具体的な制度と仕組化」、「強力なトップセールス」を一貫して示し基本姿勢は継続されている。その中で、「強力なトップセールス」について町長の考えを問う。	町 長
3 2期目の町政の重点事項について	強い大津町を創るには前進しかないと思っている。 農林業の振興や企業誘致を進めていくには道路網の充実、快適な環境の確保には上下水道の整備、防災のためには河川整備や排水路の整備が必要と考える。地域の発展のためにはインフラ整備が必要である。町長の取り組みと基本姿勢の中で、【新しい大津】の都市づくりに①肥後大津駅の周辺整備と活性化、②空港アクセス鉄道と中間駅・周辺開発、③渋滞緩和と賑わい創出への道路計画、④町全体の活性化への都市計画に取り組まれると思うが、この内容と「町内全域での取り組み」についても、町長の考えを問う。	町 長